

<b>授業科目名:</b> 協働分野セミナーⅣ	<b>単位数</b> 1 単位	<b>担当教員名:</b> 専任教員 <b>担当形態:</b> 共同
<b>配当年次:</b> 2 年次前期・2 年次後期	<b>授業形態:</b> 演習	<b>開講形態:</b> 指導教員全員による研究指導 メディア(一部)
<b>授業のテーマ及び到達目標:</b> 主指導教員と2名の副指導教員によるトリプレット研究指導体制のセミナーに参加する。主指導教員との議論により、自身の専門性を基盤としつつ、自らの研究に関連する分析能力を強化する。この作業を通じて、専門を同じくする者だけでなく、異なる専門家にも自分の研究の学術的意義を伝える能力を涵養する。また、副指導教員との議論により、より専門性が求められる理解・分析・実装の各アスペクトを錬成する。自らの専門分野だけではなく、異分野研究者との密度の濃い学術交流を通じて得られた新たな学識・情報、分析・社会実装アプローチを博士論文研究の展開に活用するとともに、多様な価値観や環境に対応できる適応力ならびに合意形成力を身につける。		
<b>授業の概要:</b> 3名の指導教員全員により、議論とラボワークを中心に据えたセミナーを定期的で開催する。専門分野に関わる分析能力(調査/実験手法、統計処理、関連ディシプリン、比較分析の手法等)を高めるとともに、博士論文の内容を教員や研究室員だけでなく、異分野の専門家に伝える訓練を行う。また、サステナビリティ研究に不可欠な多様な学術的視点を学ぶ。学生の博士論文のテーマを基本にしつつ、学際的視点を意識させるため、「協働分野セミナーⅠ～Ⅵ」の受講者と様々な観点から議論を行い、異なる分野の学識や分析・社会実装アプローチを学ぶ。		
<b>授業計画:</b> 主指導教員の調整のもと、3名の指導教員が連携し、各教員の研究室においてセミナーを定期的で開催する。必要に応じて遠隔講義システム等のメディアを用いる。 専門分野の重要な先行研究で用いられた調査/分析手法を深く掘り下げて研究し、専門分野の分析能力を強化する。特に、セミナーでの議論を日常的なラボワーク/研究活動にフィードバックさせながら、自分の研究に関連する先端的手法を使いこなせるようにする。この時期に、副指導教員との議論により、博士論文研究の内容を異分野の専門家にも伝えられるようにする訓練を本格化する。 受講生は、受動的な立場ではなく、副指導教員や研究室員とも積極的に交流し、自身の経験や分析アプローチ等を発信していくことが求められる。同時に、構想が確定した博士論文は、可能なところから執筆を開始するとともに、研究結果の一部を学術誌に投稿することを目指し、投稿論文作成を進める。 以上を経て、実践実習科目「サステナビリティ研究先端演習Ⅳ」の文理協働コロキウムでの研究構想進捗状況(研究成果を含む)に関する発表に対する準備を行う。  主指導教員として各教員が行う主な授業内容は以下のとおりである。 【東京外国語大学】		

(武内進一)地域動態論分野に関わる分析能力(統計処理、関連ディシプリン、比較の手法等)を高めることを目的として、重要な先行研究で用いられた分析手法をディシプリン横断的に幅広く研究し、自らの博士論文に関連する手法を使いこなせるようにする。また、博士論文の内容を教員や研究室員だけでなく、異分野の専門家に伝える訓練を行う。

(中山智香子)グローバルスタディーズの専門性、自らのテーマに関する文献の読み込みと分析能力を強化しつつ、自然科学的専門知識と方法論の修得をめざす。また博士論文の内容を教員や研究室員だけでなく、異分野の専門家に伝える訓練を行う。

(李孝徳)カルチュラル・スタディーズ分野に関わる分析能力(テキスト論、表象分析、関連ディシプリン等)を高めるとともに、博士論文の内容を教員や研究室員だけでなく、異分野の専門家に伝える訓練を行う。

#### 【東京農工大学】

(千年篤)博士論文研究において重要となる検証すべき仮説を確定させ、その検証に必要となる特定の先端的な分析手法(たとえばマイクロ計量経済分析)を修得するとともに、研究テーマの提案と発表を通して、専門家との議論を経験する。

(野村義宏)生物資源機能化学分野に関わる分析力を高めるとともに、博士論文の内容を教員や他の学生などだけでなく、他分野の専門家に伝えて議論するための訓練を行う。

(香取浩子)先行研究で用いられている分析手法(実験手法、統計処理、比較分析など)をさらに研究することにより、その分析手法を自分の研究に適用する能力を身につける。博士論文の内容を異分野の専門家に伝えるスキルを身につけ、国際会議等で積極的に社会に発信する。

(三沢和彦)先行研究から理解・修得した分析手法を基に、自分の研究に関する分析能力を強化する。博士論文の内容を、他分野の専門家にも伝える訓練を行うことにより、自分の研究の学術的意義を幅広い専門家に伝える能力を身につける。

#### 【電気通信大学】

(山本佳世子)社会システム工学分野に関わる分析能力(社会数理分析、空間分析など)を高めるとともに、博士論文の内容を教員や他の学生などだけでなく、他分野の専門家に伝えて議論するための訓練を行う。

(橋山智訓)「理解」「分析」「実装」の3つのアспектから段階的に進めてきた研究において、得られた成果は国際会議等を通じて積極的に社会に発信する。社会から得られた反応をフィードバックし、あらためて研究テーマを俯瞰しなおす。3つのアспектの研究サイクルをあらためて実行し、研究のさらなる深化をはかる。

(横井浩史)脳活動計測や行動学的統計解析の方法について学び、分析と評価の方法を修得する。これらを用いて自身の研究成果の実用性を数理論的に説明するスキルを修得するとともに、研究テーマの提案と発表を通して、専門家との議論を経験する。

(岡田佳子)先行研究から理解・習得した分析手法を基に、段階的に進めてきた自分の研究で得られた成果を積極的に社会に発信する。これにより自分の研究の学術的意義を幅広い専門家に伝える能力を身につける。

副指導教員として各教員が行う主な授業内容は以下のとおりである。

#### 【東京外国語大学】

(武内進一)学生の博士論文のテーマを基本にしつつ、文系的な視点を意識させることを目的として、報告と議論

を行う。プレゼンテーション全般にかかわるイントロダクションの後、受講者各自が順番に小報告を行い、その後議論を行うという実践を重ねていく。ディスカッションを通じて文系的な視点への理解を深める。

(中山智香子)グローバルスタディーズの専門性、自らのテーマに関する文献の読み込みと分析能力を強化しつつ、自然科学的専門知識を非専門家、異分野の人々などに伝えるための方法や語彙、スキルを養う。

(李孝徳)学生の博士論文のテーマを基本にしつつ、文系的な視点を意識させることを目的として、報告と議論を行う。プレゼンテーション全般にかかわるイントロダクションの後、受講者各自が順番に小報告を行い、その後議論を行うという実践を重ねていく。ディスカッションを通じて文系的な視点への理解を深める。

#### 【東京農工大学】

(千年篤)国際農業開発分野で用いられている分析手法(経済分析、統計解析等)や分析アプローチを学ぶ。同時に国際協力等の国際農業開発の実践的活動や当該分野特有の社会実装アプローチを学び、自らの研究テーマについて様々なアプローチから説明できるスキルを養う。

(野村義宏)学生の博士論文テーマに関する話題を中心に、受講者が順に報告を行う。機能性食品の可能性や生物資源機能化学の先端技術の知見を踏まえた他分野にまたがる議論を行うセミナーを開催する。

(香取浩子)学生の博士論文のテーマを基本にしつつ、理工学的な視点を意識させることを目的として、報告と議論を行う。各受講者がそれぞれの研究成果について定期的に報告を行い、研究の方向性について議論を行う。ディスカッションを通じてエネルギー科学的な視点への理解を深める。

(三沢和彦)学生の博士論文のテーマを基本にしつつ、理工学的な視点を意識させることを目的として、報告と議論を行う。各受講者がそれぞれの研究成果について定期的に報告を行い、研究の方向性について議論を行う。ディスカッションを通じて生体医用システム工学的な視点への理解を深める。

#### 【電気通信大学】

(山本佳世子)学生の博士論文のテーマを基本にしつつ、理工学的な視点を意識させることを目的として、報告と議論を行う。各受講者がそれぞれの研究成果について定期的に報告を行い、研究の方向性について議論を行う。ディスカッションを通じて社会システム工学的な視点への理解を深める。

(橋山智訓)学生の博士論文テーマに関する話題を中心に、受講者が順に小報告を行う。情報・通信技術の適用可能性を中心に、その実現可能性及び今後の研究の発展に関して議論を行う。最新の情報・通信技術の知見を踏まえた他分野にまたがる深い議論を行うセミナーを開催する。

(横井浩史)学生の博士論文のテーマを基本にしつつ、理工学的な視点を意識させることを目的として、報告と議論を行う。各受講者がそれぞれの研究成果について定期的に報告を行い、研究の方向性について議論を行う。ディスカッションを通じて計測・制御工学的な視点への理解を深める。

(岡田佳子)学生の博士論文のテーマを基本にしつつ、理工学的な視点を意識させることを目的として、報告と議論を行う。各受講者がそれぞれの研究成果について定期的に報告を行い、研究の方向性について議論を行う。ディスカッションを通じて光工学分野な視点への理解を深める。

テキスト:特になし

参考書・参考資料等:各回の授業で配布/紹介する。

学生に対する評価:セミナーの参加及び貢献等により総合的に評価する。